

主体的に音楽とかかわり、自分の思いをもって表現する子どもの育成
～他教科と関連させた題材構成の工夫～

1 設定理由

これからの情報化、国際化の時代を担っていく子どもたちにとって、自分の思いや考えなど表現したいものを持ち、それを相手に伝えられること、そのための思考力・判断力・表現力を育むことは大切である。

音楽科において、自分の思いや考えを持ち、それを伝えたい、表現したいという願いをもつためには、音楽に主体的にかかわっていくことが必要であると考え。そのためにも、じっくりと時間をかけて音楽とかかわり、音楽の美しさやおもしろさを十分に味わいたいところである。しかし、音楽の授業時数は限られており、その中で身に付けなければならないことに追われている状況がある。それは他教科にとっても同じである。そこで、他教科の学習で得た知識や体験、感じたり、考えたりしたことを音楽の学習に生かしていくような学習過程を工夫することで、限られた時間の中でも音楽と深くかかわり、より追究していくことができるのではないかと考えた。また、興味・関心の高まりから、主体的な音楽活動へとつながり、自らの思いを表現できる子どもを育てていきたいと考え、本主題を設定した。

2 研究仮説

- (1) 他教科と関連させた題材構成を工夫することで、子どもの思考が継続し、音楽活動に対する興味・関心が高まり、主体的に音楽とかかわることができるだろう。
- (2) 音楽を形づくっている要素を手がかりにして考えることで、見通しをもって、自分の思いを表現することができるだろう。

3 研究内容

- 他教科と音楽科を関連させた題材構成の工夫
- 自分の思いをもって表現するための手立ての工夫

4 結 論

- 社会科や行事を関連させた題材構成の工夫をしたことで、その地域に伝わる音楽が、気候や風土、生活や歴史などとかかわっていることを知り、それを実際に鑑賞したり、体験したりした上で音楽科の学習を行うことができた。そのため、日本の音楽の学習に対する興味関心が高まり、思いをもって表現することができ、主体的な音楽活動につながった。
- 音階やリズム、音の上がり下がりなど、音楽を形づくっている要素を手がかりにして自分の思いと照らし合わせながら、ひとつひとつ考え、試しながら音楽をつくっていくことで、より自分の表現したい音楽にするための見通しをもってとりくむことができた。

千葉市教職員組合

千葉市立稲毛第二小学校

西 田 理 恵

千葉市立川戸中学校

松 崎 真 規 子

研究主題

主体的に音楽とかかわり、自分の思いをもって表現する子どもの育成 ～他教科と関連させた題材構成の工夫～

1 設定理由

(1) 社会的背景と児童の実態から

これからの情報化、国際化の時代を担っていく子どもたちにとって、自分の思いや考えなど表現したいものを持ち、それを相手に伝えられること、そのための思考力・判断力・表現力を育むことは大切である。

音楽科において、自分の思いや考えを持ち、それを伝えたい、表現したいという願いをもつためには、音楽に主体的にかかわっていくことが必要であると考え。そのためにも、じっくりと時間をかけて音楽とかかわり、音楽の美しさやおもしろさを十分に味わいたいところである。しかし、音楽の授業時数は限られており、その中で身に付けなければならないことに追われている状況がある。それは他教科にとっても同じである。そこで、他教科の学習で得た知識や体験、感じたり、考えたりしたことを音楽の学習に生かしていくような学習過程を工夫することで、限られた時間の中でも音楽と深くかかわり、より追究していくことができるのではないかと考えた。

また、子どもたちを見ると、それぞれの音楽環境や個人の技能差は大きく、課題には素直にとりくむが、思いや考えを表現するところまでの余裕がない子どもも多い。また、思いをもっていても、どのように表現したいかと尋ねると、どう言葉にしてよいのかわからないといった様子である。

そこで、本研究では、他教科で学習したり体験したり、感じたり、考えたりしたことを音楽の学習に生かしていくような題材構成を工夫した学習を展開していくことで、子どもの思考が継続する手立てとなり、音楽表現をより深いものにしていきたい。それは、自分の思いや表現したいものの支えとなり、主体的にとりくむことにつながると考えられる。また、自分の思いと音楽を形づくっている要素とのかかわりを明確にすることで、表現する音楽に根拠をもたせ、自信をもって表現できるのではないかと考えた。

(2) 学習指導要領から

現行の学習指導要領の基本方針には、「思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成すること」とある。この基本方針を受けて、各学年の内容には、指導事項の中で、「思い（や意図）」という言葉がくり返し示されている。また、次期改訂となる新学習指導要領でも明記されていることから、思いや意図をもって表現する、ということが、音楽科にとって大切にされていることのひとつであると考え。思いをもつための手立てと、思いを音楽に表現するための手立てを考えていくことで、どの子どもも自分の思いを持ち、表現することができるようになってほしいと考えた。

以上のことから、本主題を設定した。

2 研究仮説

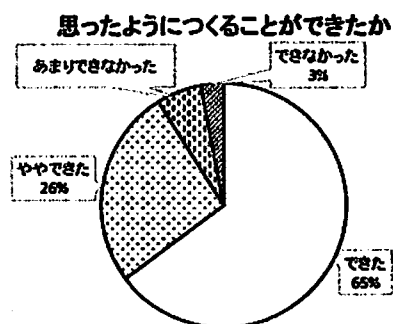
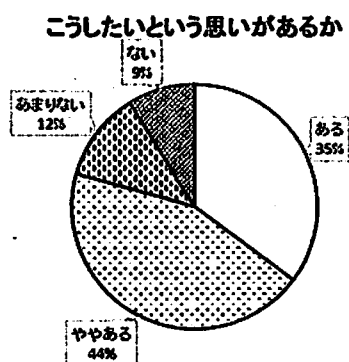
- (1) 他教科と関連させた題材構成を工夫することで、子どもの思考が継続し、音楽活動に対する興味・関心が高まり、主体的に音楽とかかわることができるだろう。
- (2) 音楽を形づくっている要素を手がかりにして考えることで、見通しをもって、自分の思いを表現することができるだろう。

3 研究内容

(1) 実態について

①調査対象 小学5年生 34人 方法：アンケート記入

②調査内容と結果、考察



本研究で扱う題材「日本の音楽に親しもう」でとりくむ音楽づくりにかかわり、アンケート調査を行った。音楽をつくる際に、自分の思いをもつことができるか、ということと、思ったようにつくることができるかについて質問した。その結果、21%が「思いがない」、「あまりない」と回答している。「思いがある」という回答は35%で全体の3分の1程度、「ややある」という回答が44%であった。

また、4年次の既習事項（日本音階でつくる2小節の旋律）で実際に旋律をつくってみたところ、「思ったようにつくることができた」という回答は65%だった。値としては高いように思えるが、理由を聞いてみると、「なんとなくいい感じの音楽になった」というような、出来上がりに満足した結果「思ったようにつくることができた」とした回答が多く、自分の思いと出来上がった旋律とのかかわりについての根拠は曖昧であった。また、「あまりできなかった」、「できなかった」という回答は9%（人数にして4人）で、理由として、「使いたい音がなかった」（日本音階で音が限定されているため）、「つくるのが苦手」、「工夫の仕方がわからない」という回答であった。

つくりたい音楽について思いをもつことができない児童が多い実態から、思いをもたせるための手立ての工夫が必要である。また、思ったようにつくることができたとは言え、その理由が曖昧であったり、工夫の仕方がわからなかったりという実態から、思いを表現するための見通しをもたせるために、音楽を形づくっている要素を手がかりとさせたい。自分の思いをもち、それをどのように音楽にしていけるか、という見通しをもつことで、主体的に音楽活動にとりくむ姿や、つくった音楽を進んで表現する姿が見られるのではないかと考える。

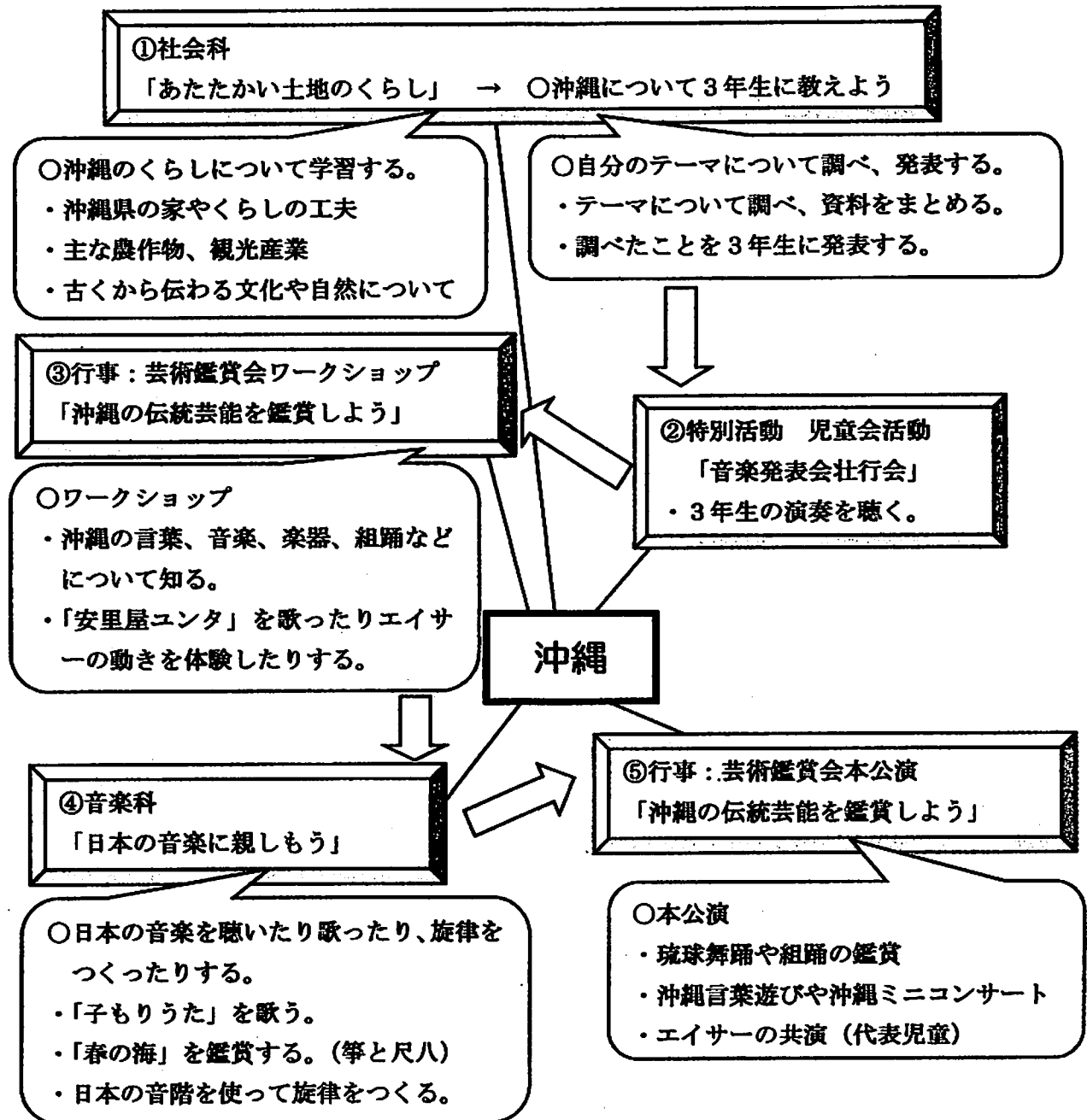
(2) 授業実践

①全体の計画

- ・社会科、行事、音楽科を「沖縄」を共通の素材としてつなぎ、計画を立てた。

音楽科「日本の音楽に親しもう」 7時間

×社会科「あたたかい土地の暮らし」 6時間×行事「芸術鑑賞会」 3時間



②仮説とのかかわりについて

【仮説1について】

音楽活動を主体的に行うためには、音楽に対する興味・関心をもち、表現したい思いをもつことが大切であると考えます。また、表現したい思いの強さというのは、音楽に対

するかかわり方やその深さにもかかわると考える。そこで、社会科、行事での学習を、音楽科の題材と関連させて題材構成を工夫することで、多方面からのかかわりが期待でき、それが、自分で表現するときの一助となるだろうと考える。また、子どもたちが他教科から得た知識や考えたこと、感じたこと、体験したことなどを音楽科の学習にも生かしていくことができるだろうと考えた。

ここでは、「沖縄」を共通の素材として教科を関連させ、沖縄の音楽や文化についての意識を高めていきたい。そこで、沖縄の音楽と比較しながら、日本音階（律音階と都節音階）や琉球音階を扱うことで、それぞれの音階に対するイメージと自分の思いを照らし合わせながら音楽をつくっていくことができだろうと考える。

実践例（ア）社会科 小単元名「あたたかい土地の暮らし」 6時間

○目標 気候条件から見て、特色のある地域の人々の暮らしについて、自然環境と人々の暮らしや産業とのかかわりを理解する。

○指導計画と学習の実際

	時	○学習内容 ・主な学習活動	実際の学習活動（第6時）
つかむ	1	○沖縄県の家や暮らしの工夫について考える。 ・沖縄県の気候や伝統的な家について知り、学習問題を立てる。	2 沖縄の家 5年 「シーサーは屋根の上について、家の守り神です。」  3年 「わかった！！だから、歌詞に『屋根の上のシーサーは…』ってあるんだ。」
調べる	2 3	○暖かい気候を生かした産業や沖縄県の文化、自然について知り、自分のテーマを決め、調べる。 ・沖縄県の主な農作物や観光産業について調べる。 ・古くから伝わる文化や自然について知り、それらがどのように守られてきたかについて調べる。	沖縄県の伝統 5年 「沖縄には三線という楽器があって、ヘビの皮が張ってあります。」 3年 「私が発表会で使う三線とちよつと違うな・・・」
まとめ	4 5	○自分が調べたテーマで発表の準備をする。 ・調べたことを資料にまとめる。	～感想から～ 【3年生】 ・何もわからず歌っていたけど、今日、沖縄のいろいろなことを教えてもらったので、気持ちをこめて歌いたい。 ・5年生にいろいろなことを教えてもらって、音楽の時間が楽しみ。 ・千葉とは全然違うんだなあと思った。 【5年生】 ・3年生が音楽発表会でうまくいってくれ
いかす	6	○「沖縄について3年生に教えよう」 ※3年生が市内の音楽発表会で沖縄の音楽を演奏するため、社会科で学習した沖縄について3年生に伝えよう	

	る場を設けた。 【3年生の発表曲】 「ハイサイ シーサー」 「ていんさぐぬ花」 「島唄」 パーランクやカンカラ三線、エイサーの踊りなどで表現した。	るとうれしい。 ・今まで知らなかったことを知ることができたのでよかった。 まだ音楽の学習に入っていないため、5年生にとっては、音楽とのかかわりを意識した感想にはなっていない。3年生に発表するという過程を経ることで、沖縄について意識的に調べ、考えることにつながり、後の音楽の学習に生きてくると考える。
--	---	---

実践例（イ）行事 芸術鑑賞会「沖縄の伝統芸能を鑑賞しよう」3時間

○ワークショップ「沖縄の音楽、琉球舞踊の鑑賞、エイサーの体験」

○本公演 「沖縄の音楽、琉球舞踊、組踊の鑑賞、エイサーの共演」

時	○学習内容 ・主な体験活動	実際の学習活動の様子
1	○ワークショップで沖縄の伝統文化について知る。 ・沖縄の言葉や文化、音楽、楽器などについて知る。 ・組踊について知る。 ・「安里屋ユンタ」を歌う。 ・「安里屋ユンタ」（エイサー）を踊る。	ワークショップ 「3年生が発表会で使っていた太鼓（パーランク）だ！」 
休み時間 朝の会	【ワークショップから本公演までの間】 ○朝の会や休み時間を利用して、「安里屋ユンタ」の歌の練習（全員）やエイサーの練習（代表児童）を行う。	「沖縄は昔、〇〇王国っていう名前だったんだけど、わかるかな？」 「…社会で習ったな…『琉球王国』だ！」
2 3	○本公演を鑑賞する。 ・琉球舞踊「四つ竹」 ・沖縄言葉遊び ・沖縄音楽ミニコンサート（楽器や曲の紹介） ・共演「安里屋ユンタ」エイサーの踊り（代表児童） ・組踊「万歳敵射」	本公演 「教科書にのっていた衣装と同じだ！」  「すごくゆっくりした動きだな。」 「私も三線やってみたいな。」

【仮説2について】

実態から見ると、思いをもつことができても、それをどのように表現するかとなると、その根拠は曖昧になり、言葉で説明できない子どもが多い。また、そのことが、「工夫の仕方がわからない」という思いにもつながっていると考えられる。そこで、自分が表現したい思いを、音楽を形づくっている要素を手がかりにして考えていくことで、自分が表現したい音楽に見通しをもてるようにしたいと考えた。

具体的には、①自分の思いに合った音階を選ぶ（律音階、都節音階、琉球音階から）

②リズムを考える（決まったリズムから選ぶか、自分でつくる）

③旋律の上がり下がりを考える

④最後の音の高低を考える

⑤演奏する楽器を考える

とする。これらのことを、リコーダーや鍵盤ハーモニカなど、自分がとりくみやすい楽器で実際に演奏しながら決めていき、自分の思い（イメージ）に合った音楽になるようにしていく。

実践例（ウ）音楽科 題材名 「日本の音楽に親しもう」 7時間

教材名 歌唱「子もりうた」 鑑賞「春の海」

音楽づくり「音階の音で旋律づくり」

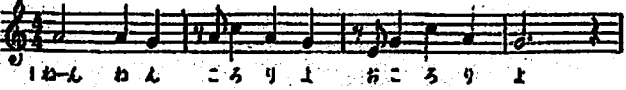
○題材の目標

- ・日本の音楽のよさや楽器の響きの美しさを味わい、それらの特徴を感じ取って聴く。
- ・日本の旋律のもつ特徴や美しさを感じ取りながら歌ったり、日本の音階の音で旋律をつくったりする。

○評価規準

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
①我が国の音楽に興味・関心をもち、それぞれの音楽のよさを理解して聴く学習に主体的にとりくもうとしている。	①日本の音階の特徴を聴き取り、その働きによって生まれるよさや面白さを感じ取って、リズムや使う音を選んで旋律をつくり、どのようにしてまとまりのある旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。	①旋律の特徴を感じ取り、曲想を生かした表現で歌っている。 ②選んだ音階の音とリズムを使って、短い旋律をつくり、友達がつくった旋律とつなげて4小節のまとまりのある旋律をつくっている。	①箏と尺八の音色や旋律を聴き取り、二つの楽器のかかわり合いや旋律の反復、変化が生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲想の変化を味わい、楽曲の構造を理解して聴いている。
②日本の音階に興味・関心をもって歌う学習に主体的にとりくもうとしている。			
③日本の音階に興味・関心をもち、その音を使って旋律をつくったり組み合わせたりする学習に主体的にとりくもうとしている。			

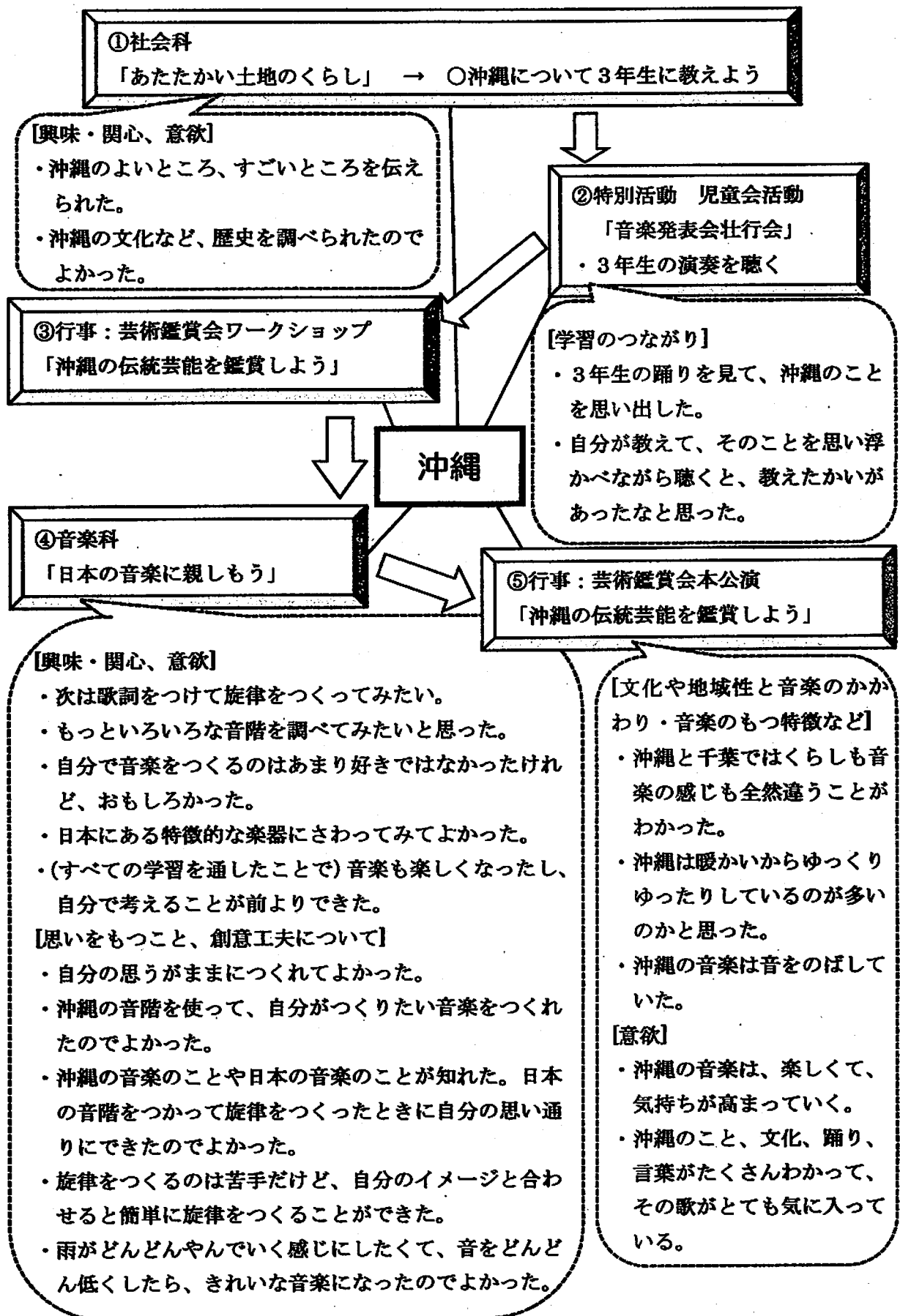
○題材の指導計画と活動の実際

次	時	○学習内容 ・主な学習活動	実際の活動、指導の手立てや支援
第一次		日本の旋律の美しさを味わいながら歌おう。	
	1	○日本の音楽の雰囲気を感じ取りながら歌う。 ・楽譜を見ながらCDを聴き、どちらの「子もりうた」か考えながら聴く。 ・歌詞の内容を考えながら歌い方を工夫する。 ・2つの旋律の違いを感じながら歌う。	子もりうた①  「ねんねんころりよおころりよ」 子もりうた②  「ねんねんころりよおころりよ」 「②の方が暗い感じがするから、弱めに歌ってみよう」 「子もりうただから、ゆっくりやさしく歌おう。」 「同じ歌詞で同じ旋律の動き方なのにどうして雰囲気が違うのだろう？」 「よく見ると、ちょっと違う音があるね。」
第二次		箏と尺八の響きと旋律の美しさを味わいながら聴こう。	
	2	○「春の海」を鑑賞する。 ・箏と尺八の音色を味わいながら聴く。 ・情景を思い浮かべながら、箏と尺八の旋律のかかわり合いに気を付けて聴く。	・情景を思い浮かべながら聴く。 <u>海の流れの音を、こころのリズムで表している。あまり速くない。</u> ・箏と尺八の旋律のかかわり合いに気を付けて聴く。 <u>（ハルシ） たんたんかかか、強い、弱く、なっている。 音がよく、たよりよく、なっている。ことのきも、たし強く、いいう。こころの音が、こころにならる。ことのき色と尺八の音色が、ハルシ感じ合っている。</u> 「『春の海』は『子もりうた』①と②、どちらの雰囲気と似ているかな？」 「②かなあ。」
第三次		日本の音階の音で旋律をつくろう。	
	3	○日本の音階について知る。 ・日本の歌や西洋の音階を使った歌から、それぞれの歌に使われている音を調べる。 ・使われている音と曲の雰囲気を感知取る。	*西洋の音階 「茶色のこびん」「まきばの朝」 *日本音階（律音階）「子もりうた①」「こきりこ節」 *日本音階（都節音階）「子もりうた②」「さくらさくら」 *琉球音階「ていんさぐぬ花」「島唄」 8曲を取り上げ（全てハ長調に移調したもの）、①曲を聴いて、似ている雰囲気の曲を見つける。 ②それぞれの曲で使われている音と使われていない音を見つける。（グループ活動…資料①参照） 「音階の音がほんの少し違うだけで、こんなに雰囲気が変わるなんて驚いた。」 「音階の音を聴いただけで、沖縄って感じがするね。不思議。」

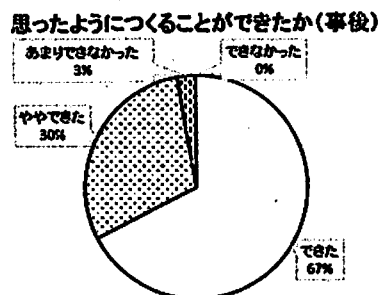
4	○日本の音階の音を使って2小節の旋律をつくる。 ・どんなイメージで旋律をつくるか決める。 ・自分のイメージに合った音階とリズムを決める。 ・旋律の上がり下がりや最後の音を決める。 ※ワークシート …資料②	・自分がイメージしやすいものから、つくる音楽のテーマを決める。(移動教室、ホテル観賞会、季節や風景など、体験したことや表したいものを「動き」や「気持ち」として表現する。) <u>思い(イメージ)を表現するための方法として</u> <u>〈音楽を形づくっている要素〉を手がかりにしながら…仮説2)</u> ①どんなイメージで旋律をつくるか決める。 / 沖縄の海のように気持ちいい曲 / 人の前のほたるのさんしょう会で飛んでいたほたるをたいて。 ②音階を選ぶ。(律音階、都節音階、琉球音階から) ③リズムを選ぶか、自分で決める。 ◆リズムは? ()リズム②を使う ()リズム④を使う ()自分で決める - () 気持ちいいリズムで表現する ④旋律の動き方を考える。 ◆旋律の上がり下がり? (どんな感じの旋律にするか決めてOで囲い、理由を書く。) 理由: 沖縄の海が気持ちいいから表現したいから ⑤最後の音を考える。 これらを、自分が表したい思いやイメージに照らし合わせて決めながら旋律をつくる。 【つくった旋律の例】…資料④ 例① 例② ①リズムを決める ②リズムを決める
5 6	○自分のイメージに合うように旋律づくりをする。 ・リコーダーや鍵盤ハーモニカで演奏しながら音を決める。 ・演奏したい楽器を決めて練習する。(リコーダー、鍵盤、カンカラ三線、箏など) ※箏の練習用ワークシート …資料③	④旋律の動き方を考える。 ◆旋律の上がり下がり? (どんな感じの旋律にするか決めてOで囲い、理由を書く。) 理由: 沖縄の海が気持ちいいから表現したいから ⑤最後の音を考える。 これらを、自分が表したい思いやイメージに照らし合わせて決めながら旋律をつくる。 【つくった旋律の例】…資料④ 例① 例② ①リズムを決める ②リズムを決める
7	○友達とつなげてまとまりのある旋律をつくる。 ・友達の旋律との組み合わせを工夫して、4小節の旋律をつくる。 ・つくった旋律を発表し、聴き合う。	「どっちから始めたらうまくつながるかな?」 「同じ音階でも、楽器が違えば雰囲気が変わるね。」

4 本研究の成果と課題

○学習後の感想から見る児童の気づき（児童の感想…資料⑤）



○事後アンケートから見る児童の表れ



事後アンケートを行った結果、67%が「思ったようにつくることができた」と回答している。その理由として、「ゆっくりにしたので二分音符を使えた」「(旋律の動きを)波のようにできた」など、自分の表したい音楽に対して、具体的なイメージをもち、そのイメージを旋律にするために、音楽を形づくっている要素を手がかりにしてつくったこと

がわかるような回答が得られた。また、30%が「ややできた」と回答している。「あまりできなかった」(1人)理由として、「調整しているうちにだんだん変になってしまった」ということが挙げられていた。「できなかった」と回答した児童はいなかった。

○成果と課題

【仮説1について】

○社会科や行事に関連させた題材構成の工夫をしたことで、その地域に伝わる音楽が、気候や風土、生活や歴史などとかかわっていることを知り、それを実際に鑑賞したり、体験したりした上で音楽科の学習を行うことができた。そのため、日本の音楽の学習に対する興味関心が高まり、思いをもって表現することができ、主体的な音楽活動につながった。

○他教科で学習したことを、教科が変わってもくりかえし思い出させながら、継続して学習を進めていくことで、他教科で学習したことと今学習していることを関連づけながら深めていく様子が見られた。

○3年生の発表や芸術鑑賞会をとおして和楽器について関心が高まっていたため、自分たちが演奏する楽器についても、自然に和楽器(箏、カンカラ三線)を手にする子どもが多く、自分がつくった旋律を何度も演奏しながら日本の音楽に親しむことができた。

●学校の教育課程に合わせ、子どもにつけたい力を明確にして年間を見通した計画を立て、実践していくことが必要である。

【仮説2について】

○音階やリズム、音の上がり下がりなど、音楽を形づくっている要素を手がかりにして自分の思いと照らし合わせながら、ひとつひとつ考え、試しながら音楽をつくっていくことで、より自分の表現したい音楽にするための見通しをもってとりくむことができた。

○自分の思いやイメージをもとに、旋律をつくっていくためのステップを示したワークシートを工夫したことで、本人だけでなく、他者にもどのような音楽をつくりたいと思っているのかが見えやすくなった。

●音楽を形づくっている要素のうち、音楽を特徴付けている要素については、その働きを感じ取りながら自分の思いを表現するために生かすことができたが、音楽の仕組みについては、今後の音楽活動の中でそのよさや面白さを感じ取れるようにしていく必要がある。

<参考文献>

・文部科学省『小学校学習指導要領解説音楽編』教育芸術社 2008 年

資 料

日本の音楽に親しもう

5年 組 (番) 名前

- ◆「茶色の小びん」「島唄」「さくらさくら」「子もりうた①」「子もりうた②」「まきばの朝」「ていんさぐぬ花」「こきりこ」を仲間分けしてみよう。
同じような雰囲気曲だと思ふものにそれぞれ記号をつけてみよう。(○▽◇)
- (○) 茶色の小びん (▽) 島唄 (◇) さくらさくら
(◇) 子もりうた① (○) 子もりうた② (○) まきばの朝
(▽) ていんさぐぬ花 (◇) こきりこ

◆旋律をつくっている音階を調べてみよう。

A ○ ○ △ ♯ ○ ○ ♯ 曲名 「茶色の小びん」 「まきばの朝」 音の感じ 明るい・あかぬけた	B ○ ○ ○ ○ ♯ ○ ♯ 曲名 「島唄」 「ていんさぐぬ花」 音の感じ おちついている
C ○ ♯ ○ ○ ♯ ○ ○ 曲名 「さくらさくら」 「子もりうた②」 音の感じ のぞのぞしている	D ○ ○ ○ ♯ ○ ○ ♯ 曲名 「子もりうた①」 「こきりこ」 音の感じ おちついている

◆調べてみた感想

この音がめけるとちがう感じがでてる。

日本の音楽に親しもう

5年 組 (番) 名前

- ◆「茶色の小びん」「島唄」「さくらさくら」「子もりうた①」「子もりうた②」「まきばの朝」「ていんさぐぬ花」「こきりこ」を仲間分けしてみよう。
同じような雰囲気曲だと思ふものにそれぞれ記号をつけてみよう。(○▽◇)
- (○) 茶色の小びん (▽) 島唄 (◇) さくらさくら
(◇) 子もりうた① (○) 子もりうた② (○) まきばの朝
(▽) ていんさぐぬ花 (◇) こきりこ

◆旋律をつくっている音階を調べてみよう。

A ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 曲名 「茶色の小びん」 「まきばの朝」 音の感じ 明るい感じ	B ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 曲名 「島唄」 「ていんさぐぬ花」 音の感じ 沖縄の感じ
C ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 曲名 「さくらさくら」 「子もりうた②」 音の感じ 日本の感じ	D ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 曲名 「子もりうた①」 「こきりこ」 音の感じ 昔話が始まりそうな感じ

◆調べてみた感想

いつもはあんまり気にしていなかったけど、きいてみると、音がなるとちがう感じがちがうんだなと思った。

日本の音楽に親しもう

5年 組(番) 名前

◆日本の音階を使って、旋律をつくってみよう。

どんなイメージの曲にする？

● 運動会や入学式で気持ちが高まっていく感じ。
 明るく楽しくなる感じ。

例えば・・・
 移動教室で楽しみな(楽しかった)気持ち・日本の景色・季節・ホテルの飛んでいる様子・・・

◆どの音階を使う？(自分のイメージに合うように選ぼう。)

() 日本音階(子もりうた①)・・・ミソラドレ(ミ)

() 日本音階(子もりうた②)・・・ミファラシド(ミ)

(○) 沖縄音階 ・・・ド(レ) ミファソシド

◆リズムは？

(○) リズム②を使う

() リズム①を使う

() 自分で決める → () 感じにする

◆旋律の上がり下がり？(どんな感じの旋律にするか決めて○で囲い、理由を書く。)

音の高低があまり変わらない。
 音が上がっていく。
 音が下がっていく。
 音が下がってから上がる。

(理由) だんだん明るく高くなっていくのを表現したいから

◆終わりの音は？(終わりたい音に○をする)

() 日本音階(子もりうた①)の場合・・・ ミ ラ ミ

() 日本音階(子もりうた②)の場合・・・ ミ シ ミ

(○) 沖縄音階の場合 ・・・ ド ミ (ド)

◆旋律をつくろう。

(○) [リズム②] (音符の下に決めた音を階名で書こう。)

4/4

(ド) (ミ) (ファ) (ソ) (シ) (ソ) (ソ) (ソ) (ド)

() [リズム①] (音符の下に決めた音を階名で書こう。)

4/4

() () () () () () () () () ()

() [自分で決める] (音符のカードを選んでマスの中に書き、その下に決めた音を階名で書こう。)

音符カード

①リズムを決めます

②「ドレミファソシ」から音を選ぶ

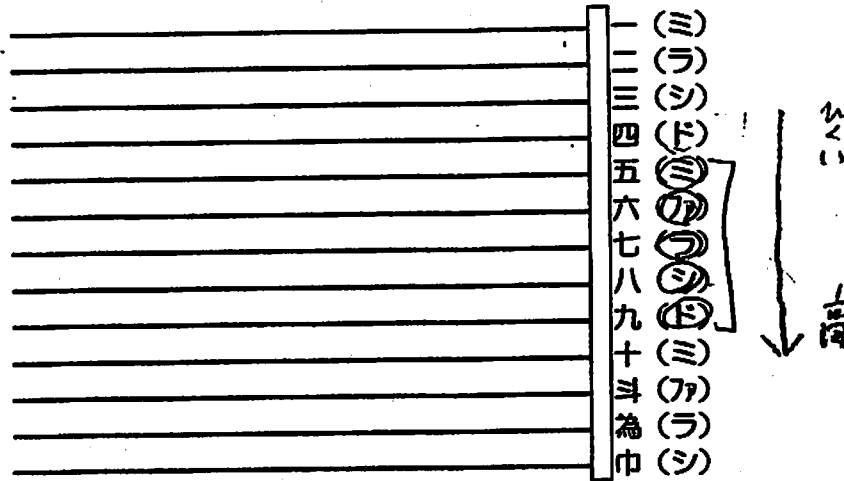
◆まず、リコーダーか鍵盤で演奏してみよう。どんな楽器で演奏したい？

だんだん明るく高くなっていくのを表現したいから、木管、リコーダー、けんば、ハーモニカでえんそうしたい。さんしん せりたい！

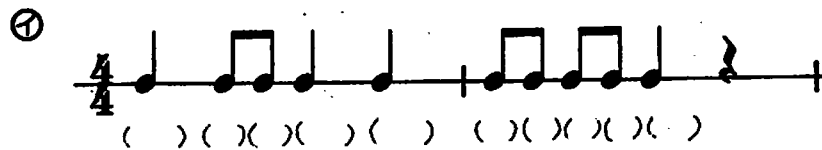
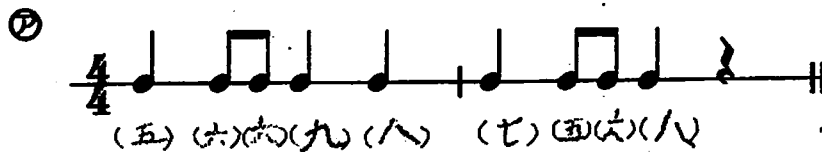
日本の音楽に親しもう <箏>

5年 組() 番() 名前

◆箏で演奏する場合(子もりうた②の音階)



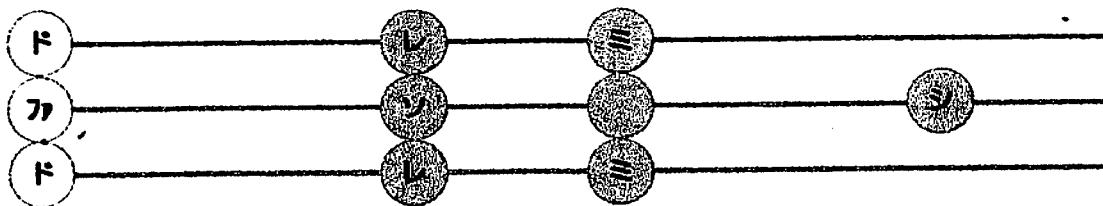
◆つくった旋律を箏の弦の名前で書きましょう。



日本の音楽に親しもう <三線>

5年 組() 番() 名前

◆三線で演奏する場合(沖縄の音階)

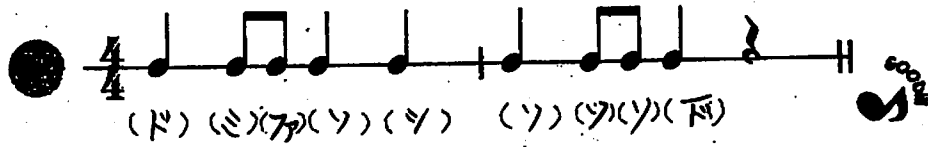


左手で弦をおさえて、右手で弦をはじく

- ① はどこもおさえずに弦をはじく
- ② は、人さし指でおさえて弦をはじく
- ③ は、中指でおさえて弦をはじく
- ④ は、薬指でおさえて弦をはじく

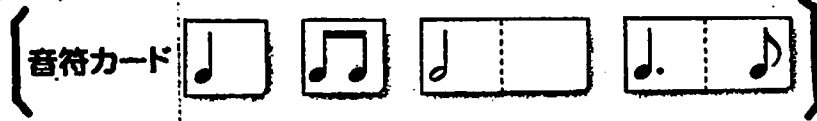
例①

(○) [リズム②] (音符の下に決めた音を階名で書こう。)

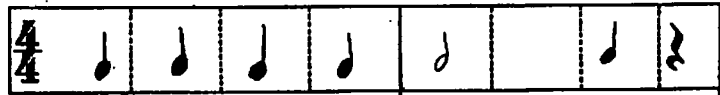


例②

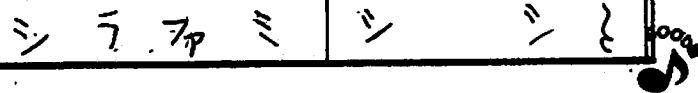
(○) [自分で決める] (音符のカードを選んでマスの中に書き、その下に決めた音を階名で書こう。)



① リズムを
決めます



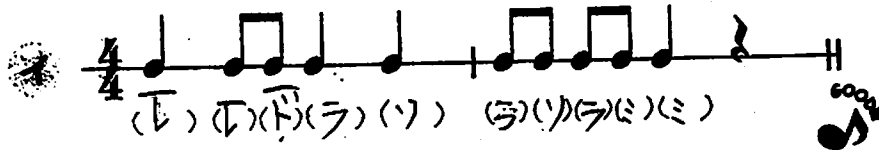
② 「ミ・ソ・ラ・シ・ド・ミ」
から音を選ぶ



その他の例

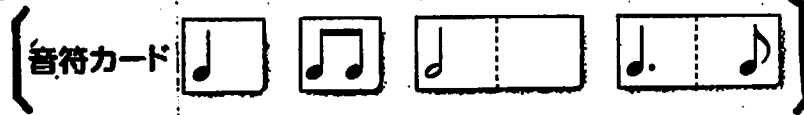
例③

(○) [リズム④] (音符の下に決めた音を階名で書こう。)



例④

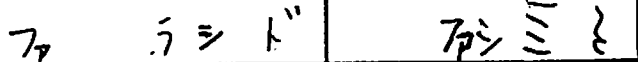
(○) [自分で決める] (音符のカードを選んでマスの中に書き、その下に決めた音を階名で書こう。)



① リズムを
決めます



② 「ミ・ソ・ラ・シ・ド・ミ」
から音を選ぶ



日本の音階をつかってせんりつを始めて
つくってみてとてもつくるのがおもしろかた
し楽しかたです。次は歌詞をつけて
せんりつをつくってみたいです。

もっといろいろな音階をしらべてみ
たいと思った。日本にあるとくちゅう的
な楽器にさわってみてよかった。

自分で音楽をつくるのはおもしろい
けどおもしろかた。

おもしろいかな、自分でもかかえるこ
とも、まねてみました。

自分のおもうがままにつくれてよかった
です。

沖縄の音階を使って自分
がつくりたい音楽をつくれたの
でよかった。

沖縄の音楽のことや日本の音楽
のことが知れた。あと日本の音階を
つづいて旋律をつくらうとき自分の思い
どおりにできたのでよかったです。

沖縄の音楽はのびすかふつうになっていく。
せんりつをつくるはにかてだけ自分イメージ
と合わせるとかんたんにせんりつをつくること
ができました。

・馬がとんとんやんでいく感じ
にしたいので、音をどんとん低くした
らきれいな音階になったのでよかったです。

三年のおどりを覚えて沖縄のこと
をよく思い出せたので三年生に
沖縄を教えてよかったと思いました。

自分がおいて、そのときおもしろいかならうかと
おいてかいてみたなと思いました。

○沖縄と音楽ではくらしも、音楽の感じも全然ちが
うことがわかった。

おもしろいかな、自分でもかかえるこ
とも、まねてみました。

沖縄の音楽は、楽しくて気持ちが高まっ
ていく！というのが自分の中でわかった。

沖縄のこと、文化、踊り、言葉がたんとわかって、
その歌がとておもしろい。とくに「島唄」が大好き
です。